



第21回環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門 講評

平成30年2月21日(水)

環境監査研究会 代表幹事

みずほ情報総研株式会社 環境エネルギー第2部 シニアマネジャー

後藤 敏彦

村上 智美

1. 世界における環境情報開示の動向

○TCFDからの気候変動関連財務情報開示の最終提言の発表

- ・金融全体において気候変動が留意すべき課題であることの明示化
- ・低炭素社会への移行に向け、財務報告内での企業の有用な情報開示が求められる

○GPIFのESG指数の公表

- ・ESG視点での評価、組み入れ状況が明示化
- ・日本企業の非財務情報開示充実への期待増加

⇒ 経営企画部やIR部とCSR・環境部との連携、
経営層コミットに基づく経営目線での非財務情報の開示、
投資家との対話がますます必要



2. 今年度の評価のポイント・変更点

○「環境報告大賞」の考え方の変更

- ・「すぐれた環境報告書」に加え
「持続可能な社会の形成、気候変動への対応について積極的に経営戦略として取り組んでいる」報告書の評価

○その他の評価項目の見直し

- ・マテリアリティを踏まえた目標設定
- ・エネルギー／資源に関わる中長期的戦略と目標との関係性
- ・グリーン調達、CSR調達



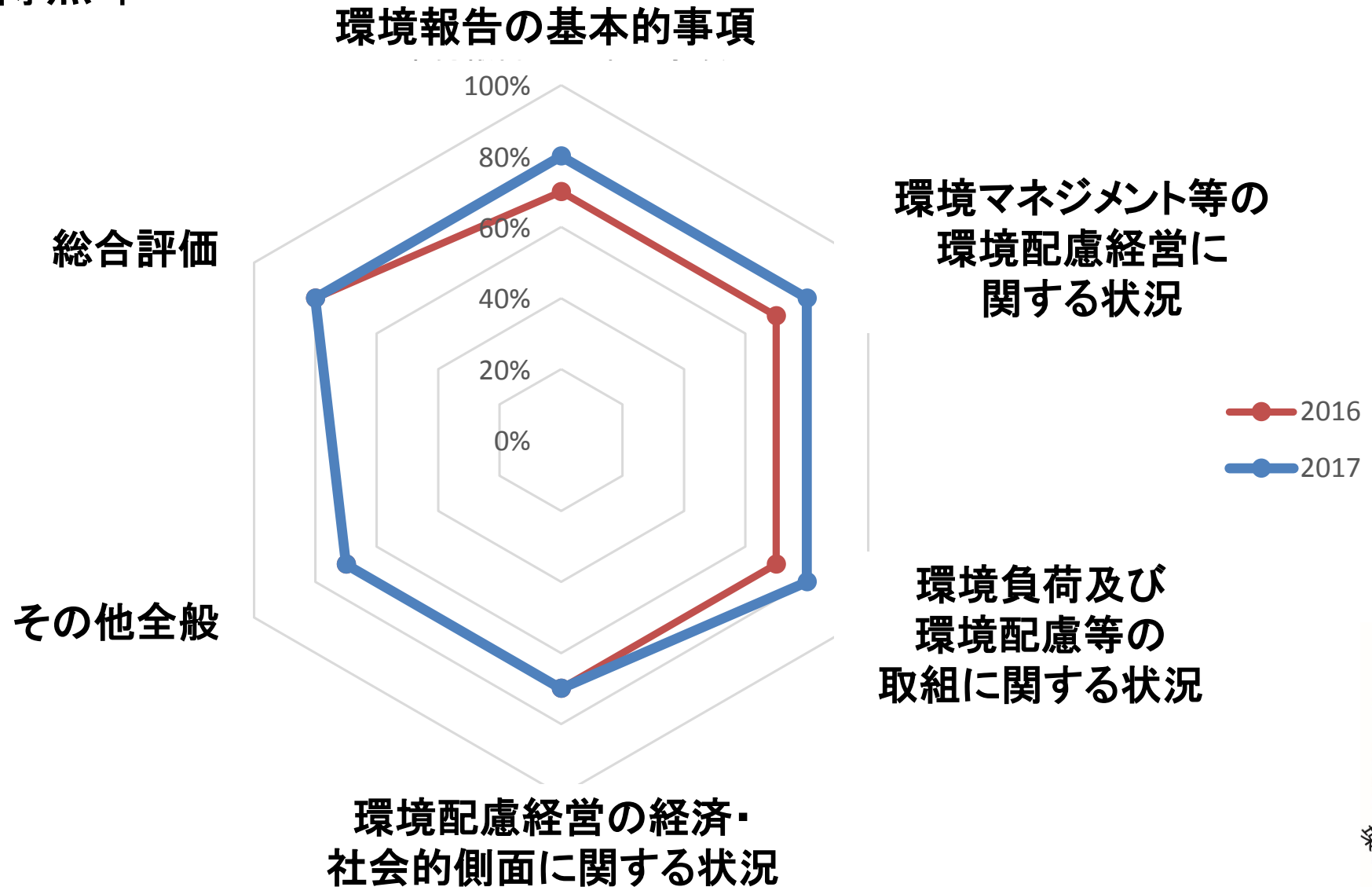
2. 今年度の評価のポイント・変更点

○「改定版環境報告ガイドライン」のポイント



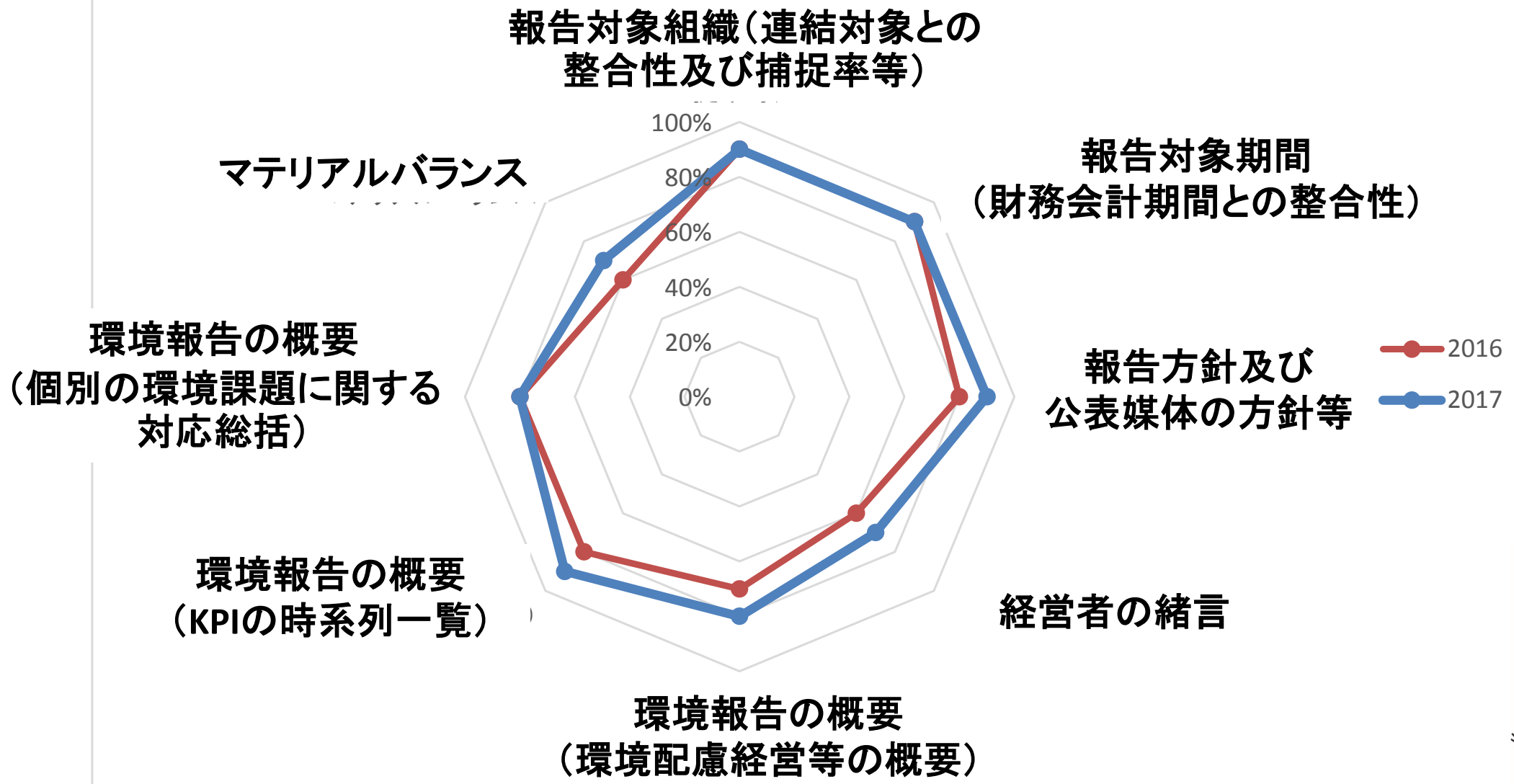
2. 今年度の評価のポイント・変更点 (採点結果)

採点表得点率



2. 今年度の評価のポイント・変更点 (採点結果)

1) 環境報告の基本的事項



2. 今年度の評価のポイント・変更点 (採点結果)

2)環境マネジメント等の
環境配慮経営に関する
状況

環境配慮の方針、
重要な課題
ビジョン、事業戦略等

組織体制及び
ガバナンス

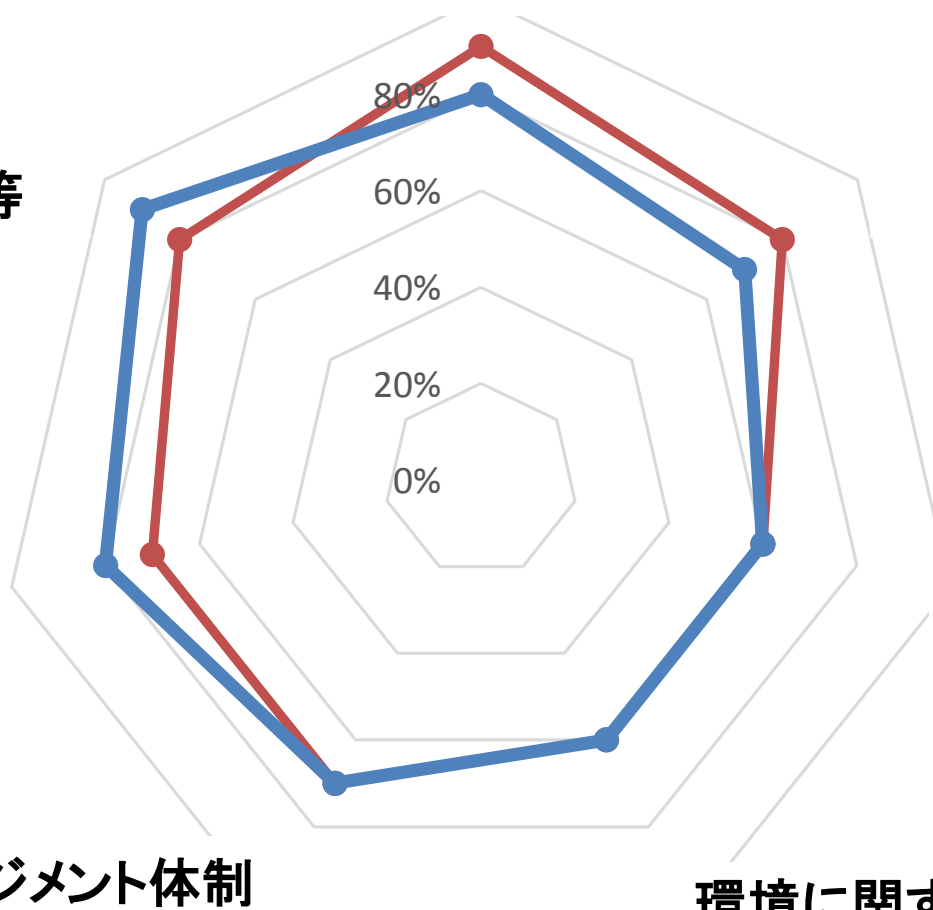
環境に関する
社会貢献活動等

ステークホルダー
への対応

従業員の教育

リスクマネジメント体制
と自然災害等の
緊急時対応

環境に関する規制等
の遵守・内部監査



● 2016
● 2017

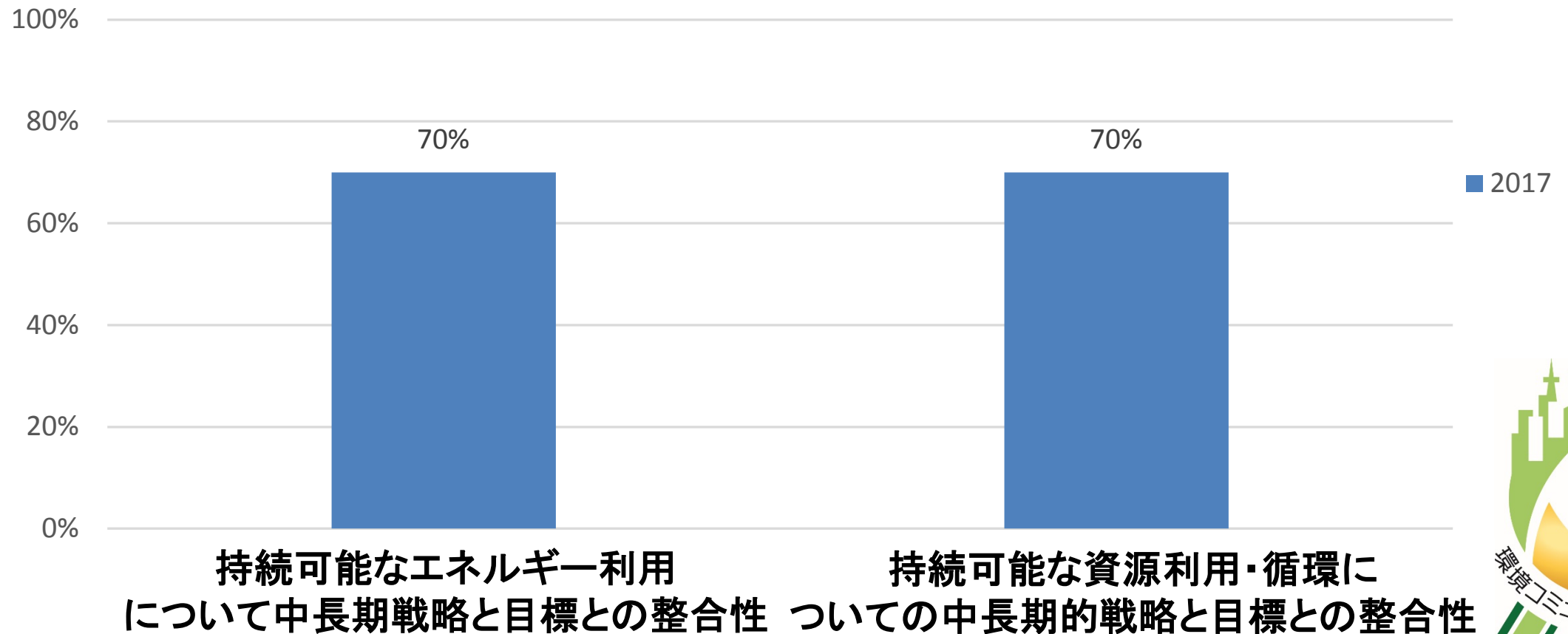


2. 今年度の評価のポイント・変更点 (採点結果)

3)環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況

3-1 戦略と目標との整合性

前年度と項目の名称を変更したため、昨年度との比較は行っていません。

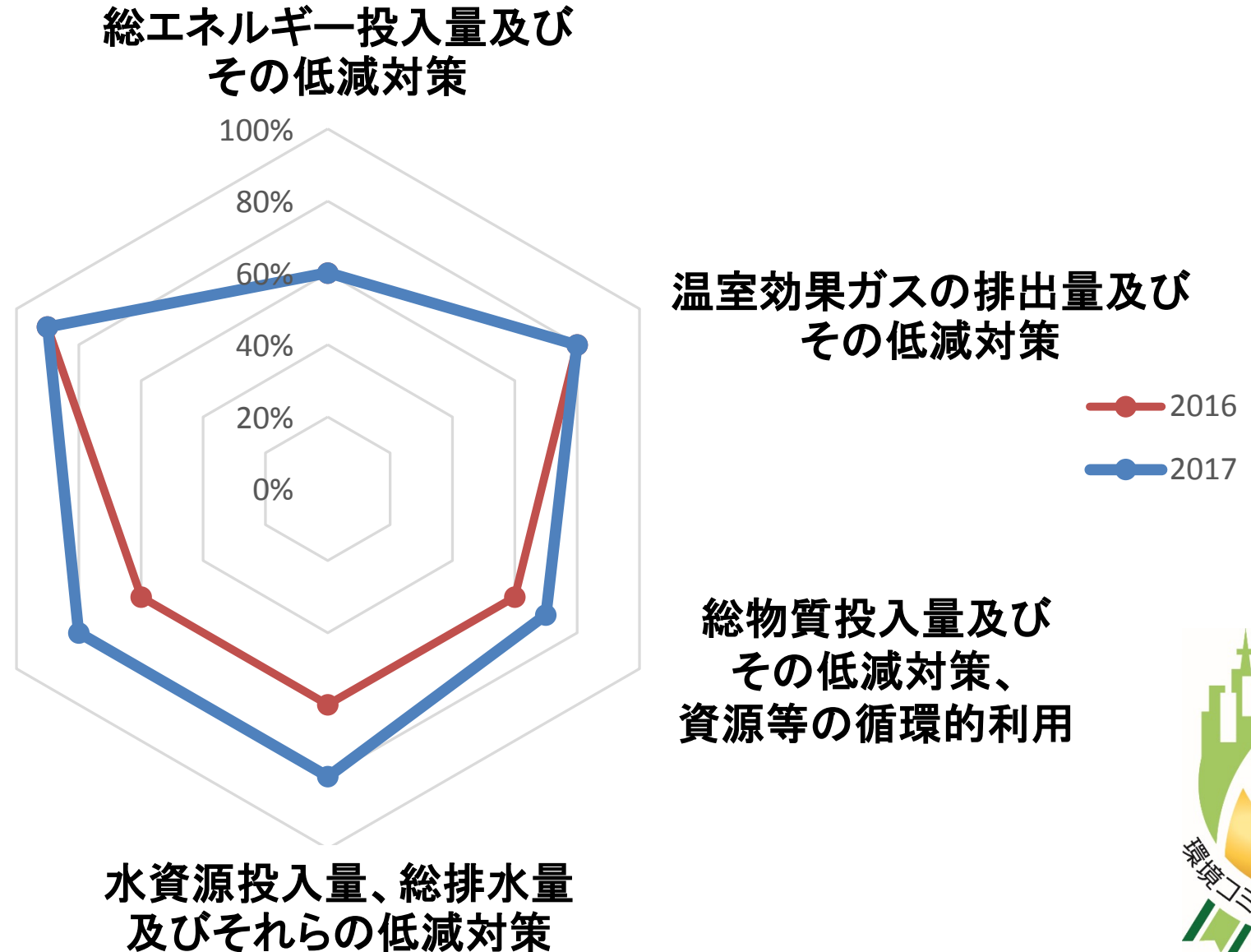


2. 今年度の評価のポイント・変更点 (採点結果)

3-2 個別指標1 Operation (操業)

その他総合評価

生物多様性の保全と
生物資源の持続可能な利用



2. 今年度の評価のポイント・変更点 (採点結果)

3-3 個別指標2 バリューチェーン関連情報

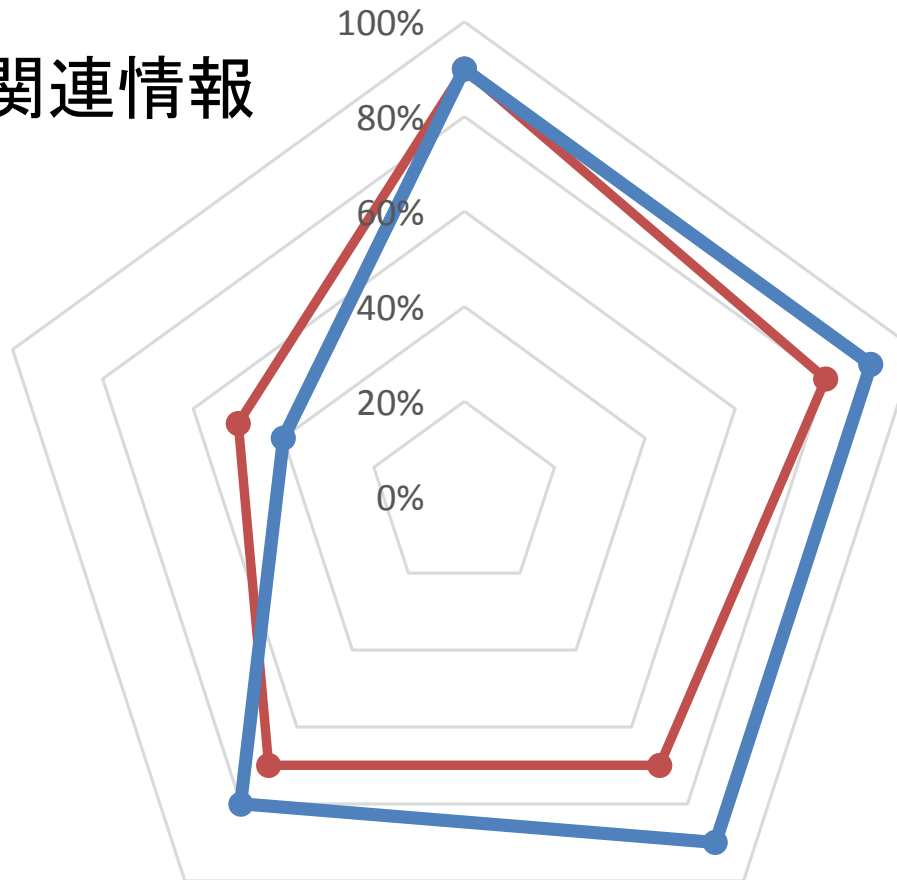
製品サービスでの環境配慮

環境に配慮した資源・
不動産開発／投資等

製商品・容器等の
リサイクル、回収、
資源再利用の取組等

環境に配慮した輸送

グリーン調達



—●— 2016
—●— 2017



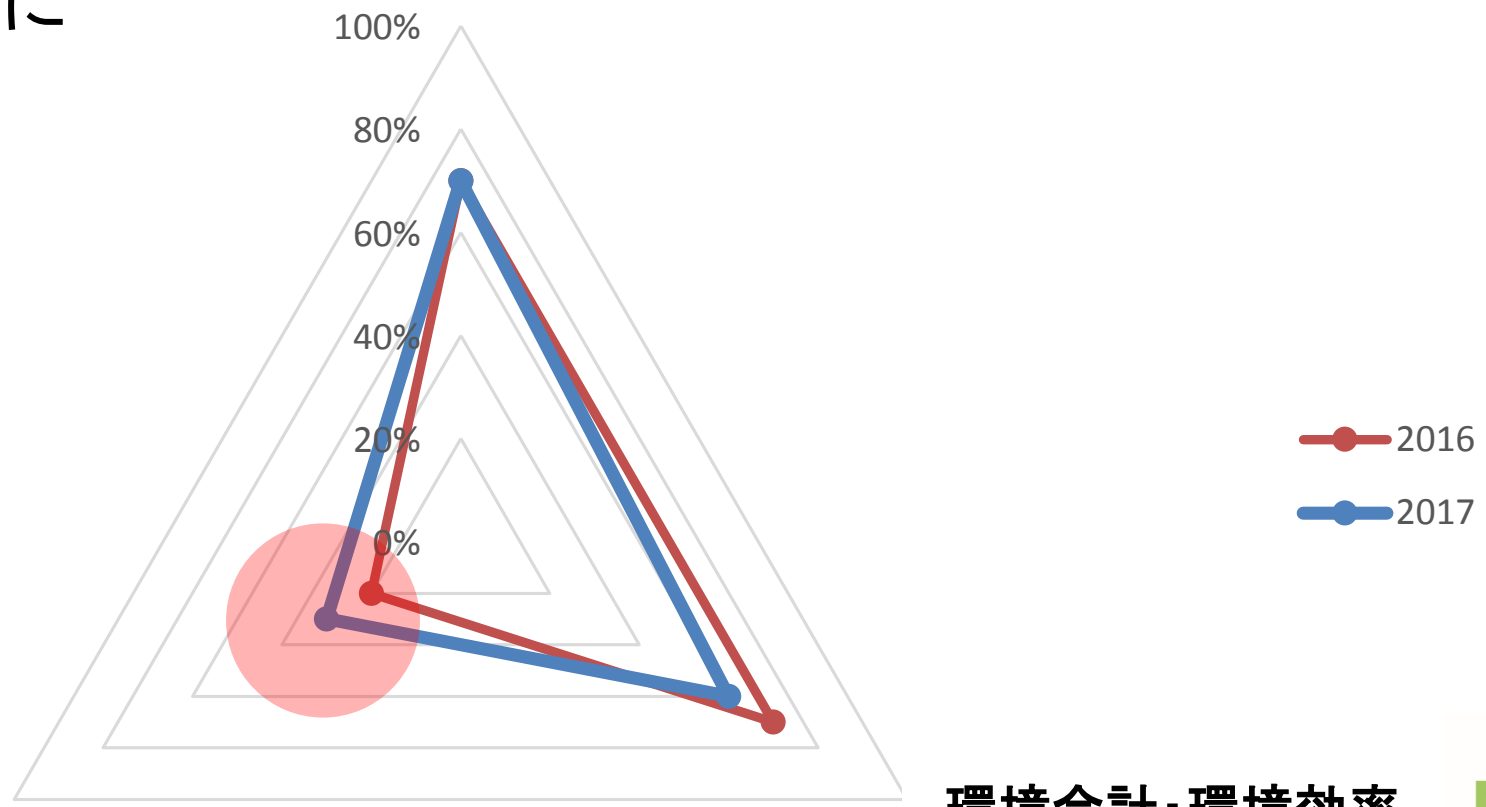
2. 今年度の評価のポイント・変更点 (採点結果)

4)環境配慮経営の
経済・社会的側面に
関する状況

4-1 経済的側面

融投資にあたってのサ
ステナビリティ配慮。
保有・運用する年金の
ESG評価、株主としての
対話等の状況、等

環境配慮経営の経済
的側面の開示の工夫



環境会計・環境効率

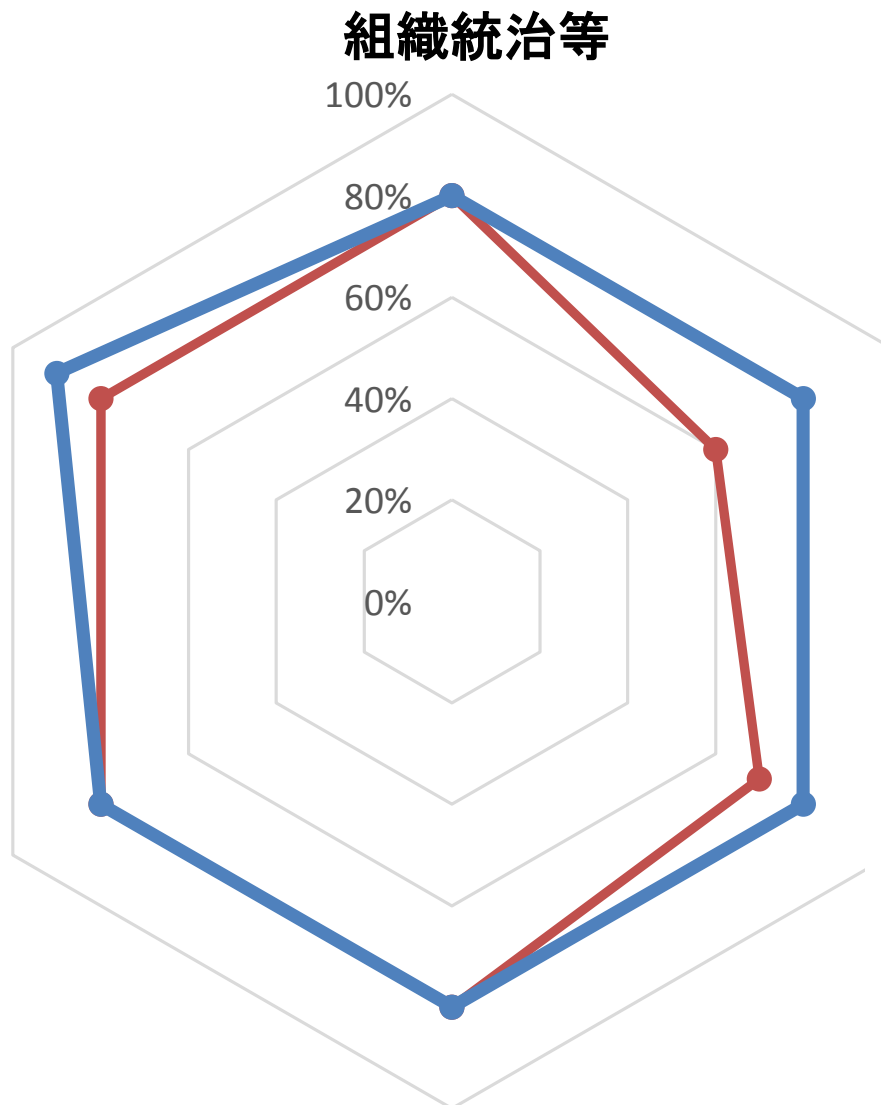


2. 今年度の評価のポイント・変更点 (採点結果)

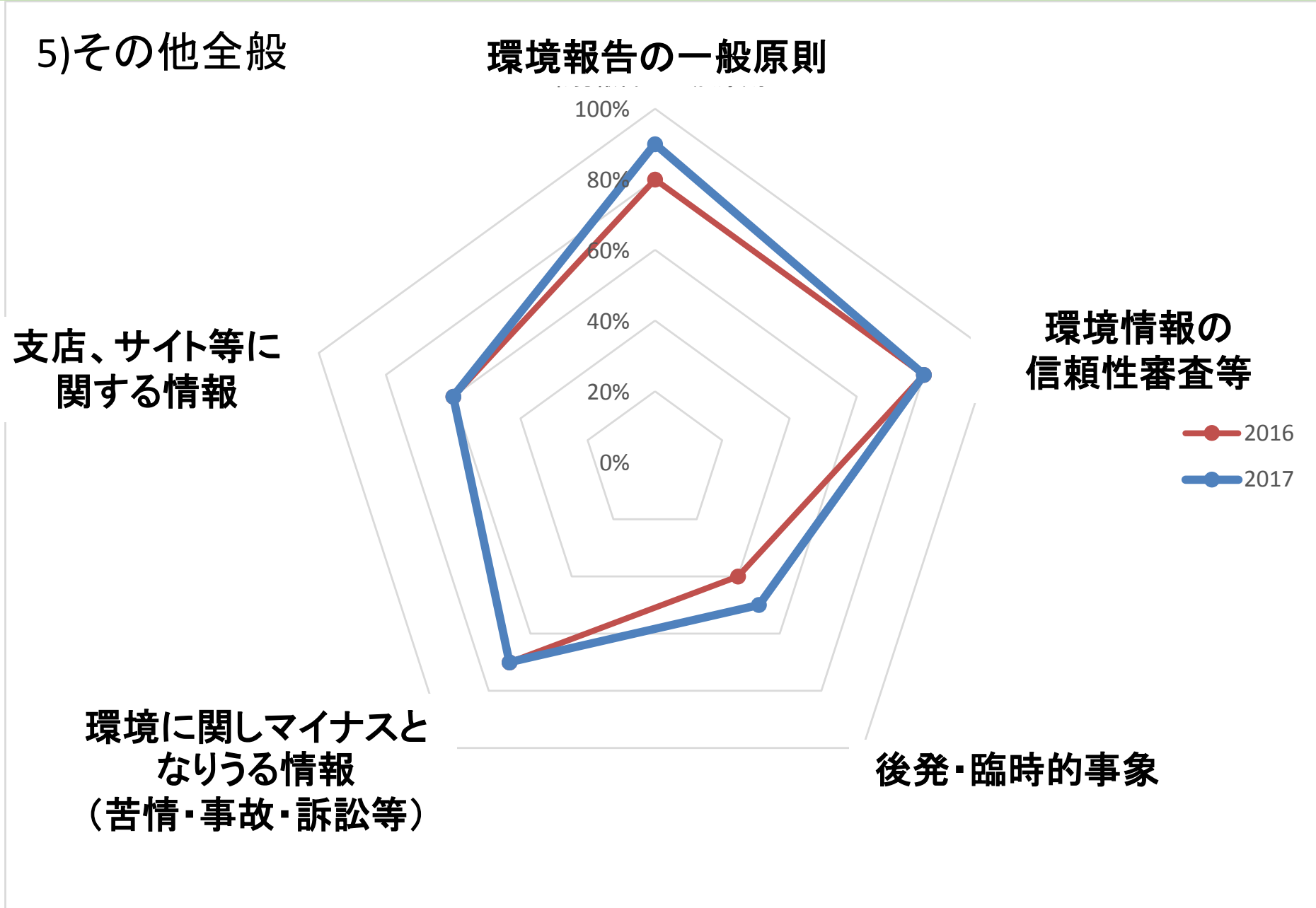
4-2 社会的側面

その他(付加価値分配、外部評価、受賞歴、等)

地域・社会



2. 今年度の評価のポイント・変更点 (採点結果)

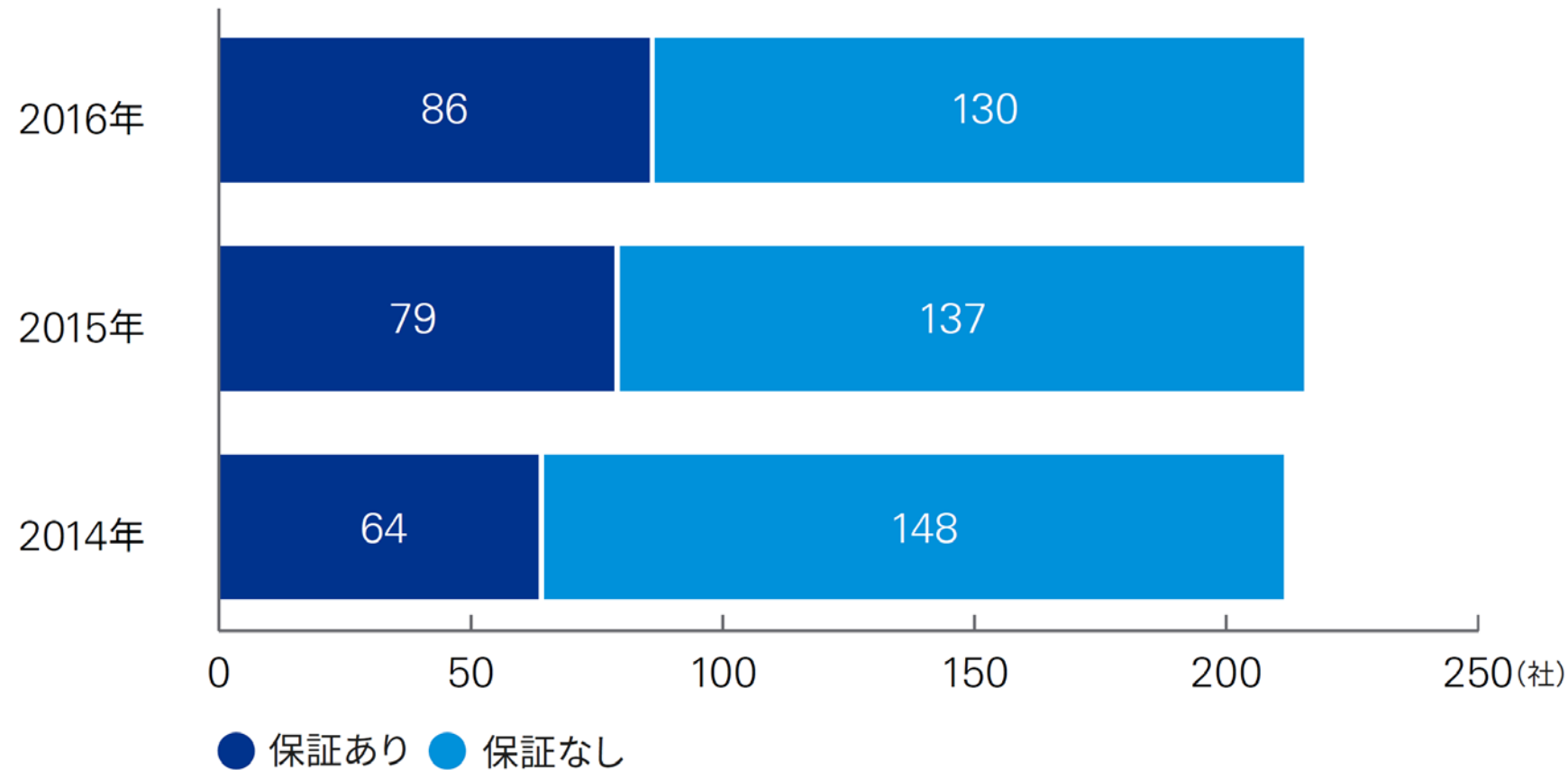


2. 今年度の評価のポイント・変更点(第三者保証の増加)

○国内外における第三者審査の増加

国内における第三者保証を受けているレポート数

「KPMG日本における
サステナビリティ報告2016」
より抜粋



調査対象：日経225の構成銘柄225社



2. 今年度の評価のポイント・変更点(第三者保証の増加)

○国内外における第三者審査の増加

世界における第三者保証を受けているレポート数

「KPMGによるCSR報告調査」
より抜粋

CSR情報に対する第三者保証の増加



N100=49カ国各国の売上高上位100社

G250=フォーチュン500に掲載された上位グローバル企業250社



3. 受賞事業者の評価ポイント

○応募作品の二極化

- ・トップランナーで先進的な情報開示を行っている企業群と、従来の情報開示を行っている企業群との差

⇒ 中長期ビジョンの明確な打ち出し、経営とリンクした戦略・目標設定を体系的に記載しているレポートが高く評価された

- ✓ リスク・機会を財務影響も含めて、経営目線で評価
- ✓ 中長期経営計画に財務・非財務の指標
- ✓ 経営、ガバナンス(G)と環境(E)、社会(S)の結合化が進展



4. 情報開示媒体のあり方

○報告書の作成形態の多様化

- ・環境報告書、CSR書のみでの応募と、
アニュアルレポートや統合報告とあわせた応募

⇒企業の指向性の理解、評価の精度向上のために、
一連の開示媒体を組み合わせての情報開示(応募)が望ましい

✓ 統合報告について

「統合報告」＝「CSR報告書の内容をアニュアルレポートに含めた」
ではない。





ご清聴ありがとうございました